

式典「3.11を忘れない」を開催しました

東日本大震災から8年を迎えた本日3月11日、杉並区は学校や事業所、区役所などでシェイクアウト訓練（自主参加型一斉防災訓練）を実施しました。また、震災の記憶を風化せず、首都直下地震などの災害に備えるため、8回目となる式典「3.11を忘れない」を開催。被災地への支援活動を継続的に行っている林家たい平さんが登壇しました。

区は、甚大な被害を被った東日本大震災の記憶を風化させることなく語り継ぎ、近い将来に必ず起こると言われている首都直下地震などの新たな災害に備え、震災から8年が経った本日、区内でシェイクアウト訓練を実施したほか、式典「3.11を忘れない」を開催しました。

シェイクアウト訓練は、平成24年度から毎年行っているもので、今年度で7回目となります。午前11時、授業中だった杉並第三小学校でも、区内で震度6強の地震が発生し、大きな揺れに襲われた想定で訓練が始まりました。予告なく行われた訓練に、初めはやや戸惑っていた児童も、これまでの防災訓練の経験を活かし、すぐ机の下に隠れるなど、揺れが収まるまで身の安全に徹しました。



また同日、セッション杉並で、式典「3.11を忘れない」を開催しました。式典では、区と災害時相互援助協定を締結している福島県南相馬市・門馬市長のビデオメッセージの上映や、区立小中学生の防災に関する作文コンクールの表彰が行われたほか、東日本大震災発生後、自ら車を運転し、被災地へ支援物資を運ぶなど、宮城県石巻市を中心に東北各地での支援活動を現在も行っている落語家の林家たい平さんが登壇しました。たい平さんは支援活動を通して感じた被災地の様子や復興に向かって歩み続ける人々の姿をありのままお話しするとともに、「被災地のことを思うこと、忘れないことが一番大切だと思う」と私たちにできることを語りました。



【問い合わせ先】

危機管理室危機管理対策課：03-3312-2111（内線）1581
総務部広報課：03-3312-2111（代表）